

歴史の法廷で被告人

ノーベル化学賞受賞者で、理化学研究所の野依（のより）良治理事長は政府の行政刷新会議の事業仕分けで、次世代スーパーコンピュータの開発予算が事実上凍結された。ことについて「不用意に事業の廃止、凍結を主張するかたには将来、歴史という法廷に立つ覚悟ができていのか問いたい」と述べ、厳しく批判した。

野依氏は「科学技術振興や

教育はコストではなく投資。コストと投資を一緒に仕分けするのはあまりに見識を欠く」と強調。

「仕分け人」が「（スパコンは）世界一でなくともいい」と発言したことに關して

も「中国やアメリカから買えばいい」というのは不見識だ。科学技術の頭脳にあたる部分を外国から買えば、その国への隷属を意味することになる」と糾弾した。

米・黒子財務省の手のひらでパホームを上演中の蓮舫国会議員。三流役者の芝居としか、私には見えて来ないから不思議だ。しかし、予算のムダを公開の場で削減する事業仕分けは自民党が50年かけてもできなかった革命的なことです。

許せないもうひとつは、自民党の麻

生前政権は政権交代を前にして、世界経済不況を逆用してマイナスの遺産を民主党政権に押しつける汚い焦土作戦をやっていたということだ。

映画紹介

最近観た映画

「沈まぬ太陽」

「ゼロの焦点」

「笑う警官」

私の一押しは「笑う警官」角川春樹監督作品。これが又実に渋い。主役の大森南朋さんはNHKの「ハゲタカ」で主演。

松雪泰子さんもいい。「ホイットニー・ヒュースト

ン」“夢をとりもどすため”も又一押し、それで休日にもう一度観に行きます。三位一体、お勧めします。外の作品もいずれも名作です。内容は監督を含めて、多くの見方が出来ます。金沢周辺の劇場は、バスに乗り行った新しい施設が、やはり体に馴染む。一流ホテルの、スペース感覚だ。

たのもし

昔も今も、また未来においても変わらないことがある。そこに空気と水、それに土などという自然があつて、人間や他の動物さらには微生物に至るまでが、それに依存しつつ生きているということである。

自然こそ不変の価値なのである。なぜならば、人間は空気を吸うことなく生きることができないし、水分をとることがなければ死んでしまう。

人間は自然によって生かされてきた。古代でも中世でも自然こそ神々であるとした。このことは、すこしも誤っていないのである。

自然を畏れ、その力を崇め、自分たちの上にあるものとして身を慎んできた。

私ども人間は、自然の一部にす

ぎないという、素直な考え、自分で生きているのではなく、大きな存在によって生かされている。自然への素直な態度こそ、自然の一部である人間同士について一層尊敬し合うようになる。

人間は社会をつくって生きている

る。自然物としての人間は、決して孤立して生きて生けるようにつくられていない。このため、助け合う、ということが、人間にとって、大きな道徳になっている。助け合うという気持ちや行動のものは、いたわりという感情である。

いたわりや、痛みを感じる、や

さしさである。これは本能ではない。だから人間は、これは訓練して身につけなければならないのである。鎌倉時代から武士達は、「たのもしさ」ということを大切にしてきた。

人間は「たのもし」人格をもたねばならない。丈夫（ますらお）だ。どの時代でも、男女ともたのもしくない人格に魅力を感じないのである。

この世で生活しているのは、人のためであつて自分のためではない。決して有名になろうと思ふな。また利益を追おうとするな。ただ自分を捨てよ。そして人を救うことだけを考えよ。

緒方洪庵

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2009年11月27日（金）N081

地域から明るい未来を作ろう